

科目区分：専門教育科目・音楽教育

授業科目名：ピアノ伴奏法（２）

対象年次：３年次～（３名受講）

ピアノ伴奏法（２）

音楽教育講座・安積京子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、ピアノ演奏法を応用発展させ、教育現場や音楽実践の場において柔軟に対応できるピアノ伴奏能力を養うことを目的とする。また他者と音楽を共に奏でることによって、アンサンブルの楽しさや喜びを共有し、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。

３年次の前期開講のピアノ伴奏法（１）において、すでに基礎的な知識および技術を習得している。本授業の後期の伴奏法（２）では、更に発展的な内容の課題を実施し、幅広い専門知識と高度な演奏能力を身につける。

2. 授業の概要について

本授業は、中等音楽教育コースと初等教育コース（小学校サブコース）の３、４回生を対象に開講されている。今期の受講生は、中等音楽教育コースの３回生３名である。ソロの演奏経験は多いが、伴奏やアンサンブルの経験はまだ少ないため、プロのソプラノ歌手をゲストに迎え、ドイツ歌曲の名曲を学生たちと共演させた。また歌曲や合唱曲の伴奏の他に、個々の学生が得意とする楽器（打楽器やサクソ）を演奏させ、他の学生がピアノ伴奏するアンサンブルの経験も積ませた。受講生は他の学生がレッスンを受けている間、聴講する。またお互いの演奏に対してコメントをする。

3. 関連するディプロマポリシー

1) 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)

2) 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。(技能)

4. 授業の課題について

以下に受講生が選択した課題の一部を記す。

(歌曲伴奏による課題曲)

- ベートーヴェン：君を愛す
- シューベルト：野ばら、鱒、楽に寄せて
- シューマン：献呈、蓮の花、くるみの木
- ヘンデル：歌劇「リナルド」より：私を泣かせてください
- プッチーニ：歌劇「ジャンニ・スキッキ」より：私のお父さん
- ビゼー：歌劇「カルメン」より：ハバネラ（合唱曲伴奏による課題曲）
- 「翼をください」、「足跡」、「手紙」（器楽とのアンサンブルによる課題曲）
- チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」、「白鳥の湖」より抜粋

5. 指導上のポイント

1) 歌曲伴奏法に関して

課題曲のドイツ歌曲やイタリア・オペラの内容を的確に理解するために、始めにドイツ語やイタリア語の歌詞を朗読し、訳を確認した。詞の内容に沿った歌手の効果的なブレス（息継ぎ）の場所を考察し、息の自然な流れについて学ばせ、フレーズのとり方やテンポ・ルバートの加減を吟味させた。その上で、各曲の背景にふさわしい音楽表現について話し合い、ピアノ伴奏の表現技術を高めるための指導を行った。

2) 演奏表現の技術指導に関して

○困難な箇所が弾けずに悩んでいる学生には、複数の練習方法を例示し、模範演奏をしながら丁寧に指導をした。

○豊かな表現力で演奏するために、オーケストラの様々な楽器の音色を想像させ、アーティキュレーションを考察し、タッチの仕方を工夫させ、音作りを行った。

○和音を美しい音色で効果的に響かせるため、指先と腕の使い方を繰り返し指導した。

○音楽表現に相応しく、かつ効率の良い運指法を習得させるために、複数の指使いを提案し試させた。

6. 授業アンケート

本授業終了時に、受講者3名を対象に無記名方式で、下記の8項目の4段階評価によるアンケートを実施した。また自由記述も併用した。

1) 集計結果について

1.本授業に興味を持ち積極的に参加出来たか。
出来た 3名

どちらかといえば出来た 0名

どちらかといえば出来なかった 0名

出来なかった 0名

2.本授業のための準備は毎回充分であったか。
充分であった 0名

どちらかといえば充分であった 3名

どちらかといえば充分でなかった 0名

充分でなかった 0名

3.出席状況は良好であったか。

良好であった 1名

どちらかといえば良好であった 2名

どちらかといえば良好でなかった 0名

良好でなかった 0名

4.授業課題の量は適切であったか。

適切であった 1名

どちらかといえば適切であった 2名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

5.授業の難易度は適切であったか。

適切であった 0名

どちらかといえば適切であった 3名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

6.授業中は良好な雰囲気を保たれていたと思うか。

そう思う 3名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

7.受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができたと思うか。

そう思う 3名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

8.本授業を受講したことが、今後の学習に有意義であると思われるか。

そう思う 3名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

9.本授業で良かった点(自由記述より抜粋)

○歌手や奏者に合わせて状況を判別しながら伴奏するという知識や技能を身に付けられた。

○様々な時代、作曲家、国の音楽に触れることで多様性を感じられた。

○他者の伴奏を聴いて、自分が伴奏できなかった曲についても授業内で勉強できた。

10.本授業で改善すべき点(自由記述より抜粋)

○課題の難易度が高く、練習時間を最大にとっても難しいことがあった。

○前回伴奏した曲を練習して次回再度弾けたら良かった。

2) アンケート結果のまとめ

授業外学習時間は週平均6.3時間であった。授業準備に関しては、全員がどちらかといえば充分であったと回答した。授業課題の量と難易度はほぼ適切であり、受講後、全員が新しい専門知識や演奏技術を得ることができ、また今後の学習に有意義であったと回答している。

7. 総括

本授業で取り上げた合唱曲の伴奏を数回、愛媛大学附属中学校の音楽教育現場において実践できたことは、学生の大きな励みになった。しかし、今年度はコロナ禍において、学生は教育現場や地域社会において十分な音楽活動が行えず、非常に残念であった。

授業はマスクをしながらの歌唱や、ビニールシートで隔てた中での演奏等、創意工夫しながら行い、オンラインに切り替わった後は、十分な実技指導が困難なため、文献調査・発表を中心にした。今限られた状況の中で、できることを模索すると共にアフターコロナを見据えた音楽教育のニューノーマルはどうあるべきかを検討していく必要性を感じている。